

音順	方劑名 傷寒論・金匱要略条文	生薬構成 および製法・服用方法
そー2	<p>続命湯 (古今録驗)</p>	<p>読み および解説・その他</p> <p>麻黄 (苦温)・桂枝 (辛温)・当归 (甘温)・人参 (甘微寒)・石膏 (辛微寒)・乾姜 (辛温)・甘草 (甘平) 各 2g 川芎 (辛温) 1.5g・杏仁 (甘温) 1.7g</p> <p>上の9味を水 400ml を以って煮て、160ml に煮詰め、滓を去り 4回に分けて服用する。 本湯を 40ml を温服せしめた時は、当然汗が出るはずであるが、少し着物を重ねて物に寄り掛らせる。少し汗を取れば、則ち病が癒ゆるのである。もし汗が出なければ、更に服用する。その場合に桂枝湯の様に別に禁ずる所はない。唯風に当たらない様にする。また咳が激しく出て、顔が少し腫れ、夜眠ることの出来ないものにもよろしい。</p>
<p>中風歴節病脈証併治第五第 17 条 (金匱要略)</p>		
<p>「附方 「古今録驗」 続命湯 中風痲 身体自ら収むる能わず口言う能わず、冒昧痛む処を知らず。或は拘急して轉側するを得ざるを治す。姚に云う大続命湯と同じく与う、兼ねて婦人産後去血者及老人小兒を治す。」</p>		
<p>中風痲、収むる能わず、冒昧、姚、</p>		
<p>解説 後から附した方 古今録驗という医書に出ている続命湯は、半身不随の中風の病で、熱は出ず、身体が痛んで動かすことの出来ない者とか、顔がゆがんで、口が引きつり、話すことが出来ない者とか、何処かが痛むらしく唯臥しているが、頭がハッキリしないと見えて何を聞かれても要領を得ない者とか、手足がしびれて寝返りが打てず、自由の利かない者によい。姚という人が言っている大続命湯と同じ様に服用させればよく、また婦人の産後の貧血とか、老人とか、小兒とかの貧血も兼治する。</p>		
<p>中風痲とは、半身不随の中風の病のことをいう。 続命湯は、麻黄・桂枝・甘草・杏仁で風邪を發散し、当归・川芎・人参で陰血を補い、甘草・乾姜で陽気を復し、石膏で表裏に渡る鬱熱を冷ます。</p>		
<p>続命湯証</p>		
<p>新古方薬囊によれば「風邪などにて熱は出ず、身体痛みて動かす事の出来ない者、手や足しびれて自由が利かない者、顔がゆがみて口引きつりて話す事の出来ない者、何処かが痛むらしく唯臥して居るが頭がはっきりしないと見え何を聞かれても要領を得ない者。」と記されている。</p>		
<p>金匱要略中風病の附方にある古今録驗 続命湯の證は次の通りなり。「中風痲で身体を自ら収むる事能はず、口言ふ能はず、冒昧にして痛む所を知らず、或は拘急して轉側するを得ざる者を治す。能く研究せらるべし。」と記されている。</p>		